

～生活習慣病予防健診オプション検査項目の詳細～

項目	どんな検査？	この検査で疑われる病気
PET-CT	PET-CT 検査とは、がん細胞が正常の細胞に比べて多くのブドウ糖を取り込むという性質を利用して、放射線薬剤 FDG(ブドウ糖類似 PET 検査薬)を体内に投与し、特殊なカメラで撮影をする検査です。 臓器のかたちを画像化する検査(X 線 CT)と PET 検査を組み合わせた PET-CT 検査により、部位や形態を特定することができます。	肺がん・大腸がん・食道がん・膵臓がん、 子宮がん・卵巣がん・甲状腺がん、 乳がん、悪性リンパ腫、骨腫瘍、 悪性黒色腫、がんの転移巣
フシミアム脳 AI (MRI、MRA、BLI+)	MRI検査は強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の力を利用して体の臓器や血管を撮影する検査です。MRI検査は「脳」の断面画像を得るもので、MRA検査は「脳血管」を立体的に抽出する検査です。BLI+検査はAIで海馬を測定し認知機能テストを合わせて脳機能をみる検査です。	脳出血、脳梗塞、脳卒中脳腫瘍、 脳萎縮、軽度認知障害
胸部 CT	筒状の検査機の中に入り、全方位から X 線を照射することで立体的に身体の中を診断することが可能です。CT 検査は、レントゲン(X 線撮影)に比べて格段に精密な情報を得ることができ、レントゲン写真では見つけづらい、早期の肺がん、および胸部の異常を見つけます。	肺がん、胸腺がん、肺炎、肺結核、 肺気腫、肺のう胞、気管支拡張症、 器質性肺炎
腹部超音波検査	腹部に、超音波を発するプローブという器具を当て、肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓、大動脈(腹部)などを調べる検査です。	胆のうポリープ、胆のう結石、 脂肪肝、腎結石、がん
頸動脈超音波検査	首の動脈に超音波を当て、狭窄の有無やプラーク(血管内部にみられる隆起)の有無、頸動脈の壁の厚さを測定する検査です。	動脈硬化の進行度、脳梗塞、心筋梗塞、 狭心症などの危険度
甲状腺超音波検査	喉の部分にある甲状腺に超音波を当て、甲状腺の大きさ、腫瘍病変の位置や大きさ・性状などを調べる検査です。	バセドウ病、甲状腺炎、甲状腺腫、 橋本病、腺腫様甲状腺腫、甲状腺がん
乳腺超音波検査 ※若い方におすすめ	乳房に超音波を当て、乳房内の病変の有無、しこりの大きさ、わきの下など周囲のリンパ節への転移の有無などを調べる検査です。	しこり(腫瘤)、のう胞、乳がん、 乳腺症、乳管の拡張とその内部の腫瘤
マンモグラフィ検査 ※40歳以上の方におすすめ	乳腺・乳房専用のレントゲン検査です。乳がんの初期症状である微細な石灰化や、小さなしこりなどを検出することができます。圧迫板で乳房を挟み、薄く延ばして撮影します。	乳がん、線維腺腫、乳腺症
子宮頸がん検診	内診、細胞診を行います。細胞診とは、細胞の一部を採取し、異常がないかを顕微鏡で見て判断する検査のことです。	子宮頸がん
眼底検査	眼底カメラで目の奥の網膜を撮影する検査です。眼底の血管の状態は脳の血管と似た状態を示し、高血圧や動脈硬化の進行度、眼球の病気、脳腫瘍、糖尿病などの発見の手がかりになります。	動脈硬化、緑内障、 糖尿病性網膜
骨密度	X線を使って、骨の密度や硬さを測定する検査です。	骨粗鬆症の早期発見
PSA(採血) ※50歳以上の男性	前立腺がんの可能性をみつけるための採血項目です。	前立腺がん、前立腺肥大症、 前立腺炎
CEA(採血)	消化器系・肺・乳・子宮等のがんの可能性を見つけるための採血項目です。	消化器系・肺・乳・子宮等のがん、 良性でも高値の可能性あり
HbA1c(採血)	過去1～2ヶ月の血糖値の平均値を見る採血項目です。	糖尿病
ピロリ菌抗体検査 (採血)	採血でピロリ菌への感染の有無を調べます。 (※ピロリ菌を除菌したことがある方には不向きです。)	食道・胃・十二指腸の潰瘍、胃がん